

令和7年度自己評価表(4月目標)

長期目標 (学校ビジョン)	～ふるさとキャリア教育 生涯学び続けるために～	今年度の 重点目標	1 知を磨く	○進路実現100% 生涯にわたって学び続ける力を育成する。
	自分らしさに誇りを持ち、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成		2 徳を高める	○ルールを守り、郷土愛や社会の一員としての自覚と使命を育む。
			3 健康を育む well-being	○ひとり一人が輝き、皆から愛され必要とされる存在を目指す。
			4 業務改善の推進	○時間外業務時間縮減を推進する。

評価基準 A:十分達成(95%) B:概ね達成(75%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)

年度当初				評価結果(2)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 知を磨く	○進路実現100% 生涯にわたって学び続ける力を育成する。	○就職希望者内定100%。 進学希望者 進学先未決定1名 引き続き進路指導していく。 1.2年次の進学希望者には冬季休業時、放課後に補習対策を行った。モチベーション高く臨む生徒が多かった。 ○「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「3年進路IR」などで多くの外部講師を招きキャリアについて考える場面を提供することができた。ベネッセなど外部人材を招き、生徒および教員向けの研修を実施した。 ○青谷学Ⅰ・Ⅱで地域との繋がりを深めた。成果発表会では地域の方から生徒の研究に対して好意的な意見が寄せられた。 ・「授業で基礎的・基本的な学力が身についている」と思う生徒が33.6%。 ・「講演会等が進路や生き方を考えるのに役立つ」と肯定的に思う生徒が88.5%。	○進路実現100%、進路目標を明確に持ち、実現に向けて、努力している。 ○DXハイスクール事業を推進しながら、さまざまな場面で多様な個性に応じた授業が展開されている。 ○総合的な探究の時間を主として生徒が主体的、積極的に地域課題や地域貢献について学習を積み重ねている。 ・「授業の内容に興味・関心を持っている」と肯定的に思う生徒が80%【学①】 ・「授業で基礎的・基本的な学力が身についている」と肯定的に思う生徒が90%。【学③】	○進路指導部、人権指導部と積極的に連携を取り、個々に最適な進路決定及び実現を目指す。 ○進路に応じて、補習、小論文、面接指導を計画的に行う。 ○ICTに関する教職員・生徒用の研修を開催する(スタディサプリを積極的に活用する)。 ○多様で特色ある授業の実践を行う。 ○系列・科目選択において適切な指導を行う。 ○三点固定(起床・勉強開始・就寝)が守られているか、自宅学習調査等を使って調査する。			
2 徳を高める	○ルールを守り、郷土愛や社会の一員としての自覚と使命を育む。	○生徒の授業規律・授業態度は改善の傾向にある。指導が困難な生徒に対しては、必要に応じて個別指導を行った。生徒の解釈と教員の認識に乖離があり、共通理解が必要である。 ○他者への配慮が不十分なところもあり、人間関係にトラブルがあったケースも見受けられたが、以前に比べると落ち着いてきている。 ○継続的な地域連携の結果、少しずつではあるが、主体的な地域行事への参加も見られ始めた。 ○ボランティアに関する情報を随時提供し、生徒会執行部や部活動単位での参加ができた。 ・「学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好」と思う生徒が41.6%。 ・「地域や学校外でのボランティア活動に参加した」生徒が51.3%。	○全職員の共通理解のもと、生徒が学校のルール、校則を守り、授業規律、授業態度が高まっている。 ○生活においてマナーを守った行動をとることができる。 ○他者の人権を尊重し、配慮ある言動・行動ができ、良好な人間関係を築くことができている。 ○地域や校外との関わりを意識し、社会の一員として行動することができる。 ○生徒が主体的、積極的に地域について学び、地域貢献や交流を実践している。 ・「学校生活で周囲の人たちとの人間関係は良好」と肯定的に思う生徒が90%。【学⑦】 ・「校則を守って生活している」と肯定的に思う生徒が90%。【学⑧】	○生徒が授業や学習を大切にできるよう、授業規律を守り、規範意識がさらに向上するよう率先垂範していく。 ○意見を交換し合える機会を作り、一人一人が他者を気遣いながら自分の考えを伝え、クラスに貢献できるように、細やかな指導を行う。 ○産業社会と人間・青谷学などの授業、年次集会、各種行事を通じて、地域連携を図り、地域行事、ボランティアに参加しようとする態度を育成する。			
3 健康を育む well-being	○ひとり一人が輝き、皆から愛され必要とされる存在を目指す。	○3年次生では、面接指導、就職活動を通じて礼儀、挨拶、敬語の使い方などについて日常的に声かけをすることができた。2年次生についても三学期から就職面談を行うことで、社会人としての身だしなみや礼儀作法の意識付けを行っている。 ○こちらから挨拶をすれば答えてくれるが、自主的に挨拶をできる生徒が少ない。 ○個別の必要に応じて外部機関と連携し生徒の支援にあたった。 ・「毎日の挨拶はきちんとしている」と思う生徒が40.7%。 ・「部活動は充実している」と肯定的に思う生徒が88.2%。	○健康管理、生活習慣が確立している。 ○学校行事や部活動・同好会活動が活発になる。 ○気持ちのコントロールができる。 ・「自ら挨拶をし、場面に応じて丁寧な言葉遣いができる」と肯定的に思う生徒が90%。【学⑬】 ・「部活動や学校行事に意欲的に取り組んでいる」と肯定的に思う生徒が90%。【学⑮】	○欠席、遅刻、早退の届出のルールを徹底して指導するとともに、家庭との連携を密にする。 ○遅刻・早退が減るように教員間で情報を共有し必要であれば面談・クールダウンの時間を与えながら指導・支援を行う。 ○年間を通して個人面談を充実させ、生徒一人一人の状況を的確に把握し、適切な指導に努める。 ○地域支援センター、医療機関等と情報交換、共通理解を図り連携して対応する。 ○学校行事の内容の改善を行う。(遠足・学校祭、国際交流など) ○部活動・同好会活動への生徒加入を職員間で連携して行う。			
4 業務改善の推進	○時間外業務時間縮減を推進する。	○職員の勤務状況を把握し、勤務の割り振り等を行った。 ○デジタルサイネージにGoogleドライブを活用し、情報の伝達を簡易化した。 ・時間外業務時間は月平均45時間超え、及び年360時間を超えた職員は1名。 ・教職員の年休取得が平均年14.70日。	○職員にとって働きやすい職場となっている。 ○情報共有を徹底する。 ・時間外業務が360時間超えの職員を0名にする。	○生徒情報共有フォルダに、その都度データとして残し、いつでも見られるようにする。 ○学校行事の精選を行う。 ○朝の年次の会などを活用し、情報提供をする。 ○出欠の日々入力などのデジタル化を推進する。			